

「音楽が好き」という思い



原町第二中学校 三年

日野岡 早紀



辛いことや苦しいことがあっても、諦めずに自分の「好き」という思いを突き通そう。中学校生活を経て、私は強く思うようになりました。

私はサクソフォン、もとい音楽が本当に大好きです。私は中学校に入り、小学生のときから続いていた吹奏楽部に所属することを決めました。

「中学校でもサクソスを吹いて、今までよりも難しい曲をいっぱい吹きたい。」

希望を胸に膨らませ入部しましたが、待っていたのは夏のコンクールの中止でした。言葉にならないほどのショックを受け、悲しかったことを覚えています。しかし、そんな悔しさを胸に、一生懸命練習を重ねた秋のアンサンブル

コンテストでは、県大会出場の切符をつかむことができませんでした。「音楽が好き」という一心で練習を重ね、結果につながったことで、「やはり自分は音楽が好きなんだな」と確信が持てました。そして、二年生の秋に行われた役職の選出では、部長に推薦されました。みんなからの信頼や期待が結果に現れているような気がして、とてもうれしかったし、より一層頑張ろうと思えました。

しかし、部長になってからは、「音楽が好き」という気持ちだけではうまくやっけていけないことが増えてきました。大会に向け、同級生との衝突が多くなってきました。吹奏楽部は、音楽が好きという純粋な気持ちで入った人もいれば、楽そうだからという理由で入部を決めた人もいます。

人によって気持ちの差が生まれているのならば、練習態度にも差が生まれてしまうのも当然です。いつ練習場所を通っても、聞こえるのは楽器の音ではなく話し声でした。

「部長として練習態度は注意するべきなのだろうか。変に注意をして仲間との関係にひびが入ってしまったらどうするのか。」

「と思い悩む日々が続きました。そして、大会が近づくにつれて、部内で練習方針の食い違いが生まれていきました。「合奏をたくさんしたい。」「楽器別に練習したい。」人によって思い描く練習方法は千差万別で、みんなの意見をくんで計画を立てるのは骨が折れるものでした。」

そのことに加え、試験に向けての勉強、ソロコンテストの練習、そして部活動。「このままで大丈夫かな」と不安になって眠れないこともありました。そのとき私の中でだんだん強くなっていたのは、

「音楽なんてやっている暇はないんじゃないか。」

「部活動を辞めたら生活も余裕ができるんじゃないか。」

という悲しい考えでした。そんな考えが頭をずっとぐるぐるしている状態だったため、何事にも集中力が続かず、無気力な時期もありました。

そんな私に、再びきっかけを与えてくれたのは、SNS

で見た一本の動画でした。私が好きなゲームの音楽を、オーケストラで演奏しているものでした。少し寂しげだけれど、優しく静かなオーボエの音色、ふるえるような迫力と強壮なトロンボーンの重低音。私ははっとしました。「ああ。音楽とはこんなに美しいものだったのか。」と。積み重なった人間関係のストレスで、私は音楽の本質を見失ってしましました。何十人というオーケストラの一つ一つの音を濁りなくまとめあげ、より精度をあげるのは果てしなく大変です。しかし、仲間とともに作り上げる音楽の先には、その苦しさを凌駕する感動が待っているのです。私は、そんな音楽の魅力に再び気づくことができました。それからは、私が音楽の力に心を動かされたように、部長として音楽の力の素晴らしさを、部員と演奏を重ねることで、部員一人一人に伝えたいと強く思うようになりました。

今みなさんは好きなことに真正面から向き合っていますか。好きという気持ちを貫き通せば、辛いことや苦しいことも乗り越えられるのだと、経験から気づくことができました。私は、吹奏楽が大好きです。どんなことがあっても、これだけは断言できます。そしてこれから、幾度なく困難が訪れても、それを一つずつ乗り越えて、自分の「好き」という思いを貫き通したいです。